2024年度第1号(通巻第9号)

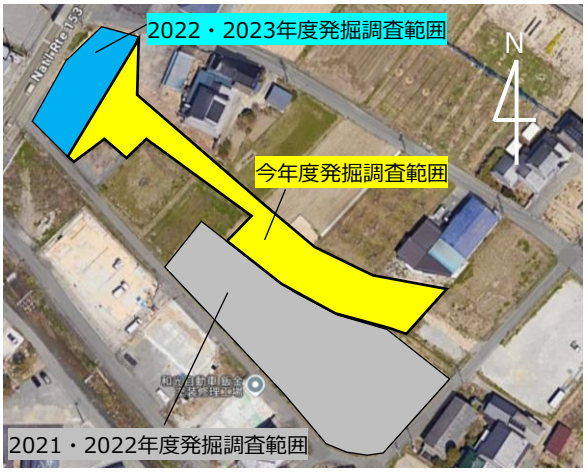
五郎田遺跡　発掘だより

2024.10.28

≪2024年度の発掘調査が始まっています≫

2024年７月から重機による表土の掘削作業が始まり、中央新幹線建設工事に伴う五郎田遺跡の今年度の発掘調査を開始しました。今年度の調査面積は約1600㎡あり、場所は、 2021・2022年度に弥生時代から平安時代の竪穴建物跡(たてあなたてものあと)34軒、掘立柱建物跡(ほったてばしらたてものあと)5棟などがみつかった発掘調査範囲の北側、 2022・2023年度に古墳時代から奈良・平安時代の竪穴建物跡19軒などがみつかった発掘調査範囲の南東側に位置しています。

五郎田遺跡の位置



年度別発掘調査範囲

表土の掘削作業と並行して遺構を探す作業を開始しました。その結果、竪穴建物跡約20軒など多数の遺構がみつかりました。弥生時代から平安時代までの遺構が多くみつかっている場所の隣接地のため、調査前から相当数の遺構が存在することを予想していましたが、想定を上回る数の遺構がみつかっています。

遺構の検出作業

遺構の検出状況

白線で囲われた黒っぽい土の範囲が遺構。写真中央奥の黄色っぽい土は、自然に堆積した土で、遺構はこの黄色っぽい土を掘って作られ、黒っぽい土で埋まっています。

≪竪穴建物跡から続々と遺物が出土！！≫

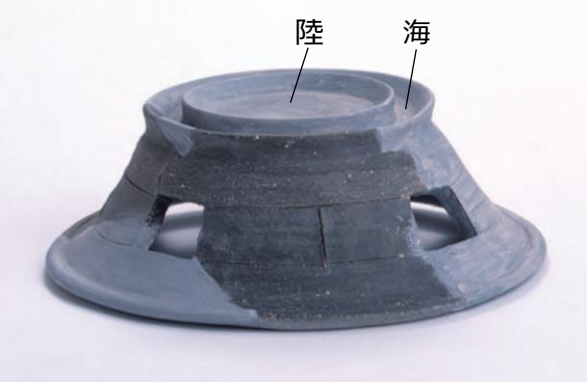
五郎田遺跡が立地する段丘面には、古代伊那郡の郡役所(伊那郡衙)と推定される国史跡の恒川官衙遺跡や、三彩陶器・円面硯・銅製帯金具等の出土遺物から恒川官衙遺跡と関係する集落と想定される堂垣外遺跡があります。五郎田遺跡は、堂垣外遺跡とともに伊那郡衙に関係する大規模集落の一つであった可能性を想定していますが、昨年までの調査では官衙に関連する遺物は出土していませんでした。

今年度の発掘調査で、「円面硯」という古代の硯が出土しました。残っている部分の直径は約11㎝で、中央に墨を擦る部分の「陸」を、その周りに墨水を入れる部分の「海」を確認することができます。硯は文字を書くために必須の道具で、郡衙に勤めていた役人が仕事をするためには欠かせない道具です。恒川官衙遺跡でも多く出土しています。

そのほか「灯明皿」という、灯りをともすための器も出土しました。食器の転用品と思われ、口縁部内側にススが付着しています。大きさは口縁部直径が約10㎝、底部直径が約5㎝、高さが約3㎝です。

今回紹介した円面硯と灯明皿は、産地や製作年代について今後の検討が必要で、伊那郡衙との関係を指摘できる段階ではありませんが、今後の調査成果をお楽しみに。

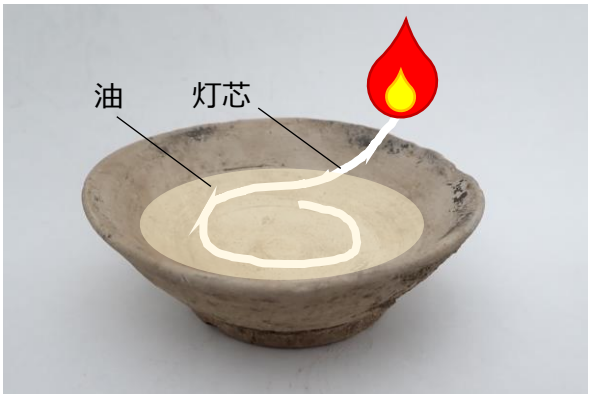
五郎田遺跡出土の円面硯



恒川官衙遺跡出土の円面硯

山下誠一・坂井勇雄 2021 『史跡恒川官衙遺跡 恒川遺跡群』pp76より

五郎田遺跡出土の灯明皿



灯明皿の使用イメージ図

長野県埋蔵文化財センター　飯田支所
〒395-0151　飯田市北方297-5　　電　話：0265-49-0736
メール：maibun@naganobunka.or.jp　　H　P：https://naganomaibun.or.jp/
担当：村井/大泰司/和田　　支援業務　(株)シン技術コンサル
中西/菊池/小林